

【6. 放射線管理施設 2 換気設備 2.2 緊急時対策所換気空調系 (4) 送風機】

変更前 (2020年10月14認可)		変更後 (本変更認可申請)		備考		
<p>(4) 送風機の名称, 種類, 容量, 主要寸法, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) 並びに設計上の空気の流入率</p> <p>・可搬型</p> <p>a. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 可搬型陽圧化空調機 (ファン) (6,7号機共用)</p>		<p>(4) 送風機の名称, 種類, 容量, 主要寸法, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) 並びに設計上の空気の流入率</p> <p>・可搬型</p> <p>a. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 可搬型陽圧化空調機 (ファン) (6,7号機共用)</p>				
K7 ① II RI	送風機	名称	変更前	変更後	K7 変① II R0	
		種類	—	5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 可搬型陽圧化空調機 (ファン) (6,7号機共用)		
		容量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上(600*1)		遠心式
		主要寸法	吸込口径	mm		113.2*1
			吐出口径	mm		100*1
			たて	mm		1338*1
			横	mm		537*1
			高さ	mm		476*1
		個数	—	1 (予備1)		
		取付箇所	保管場所	—		5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm
			取付箇所	—		5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 付近
			溢水防護上の区画番号	—		K5TSC
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	0.00m		
		原動機	種類	—		三相誘導電動機
			出力	kW/個		0.7
個数	—		1 (予備1)			
取付箇所	—	送風機と同じ				
設計上の空気の流入率	回/h	—*2	—*2			
注記*1 : 公称値を示す。 *2 : 陽圧維持できるよう加圧するため, 空気流入はない。		注記*1 : 公称値を示す。 *2 : 陽圧維持できるよう加圧するため, 空気流入はない。				
6-2-24		6-2-1		原動機出力の変更		

【6. 放射線管理施設 2 換気設備 2.2 緊急時対策所換気空調系 (4) 送風機】

変更前 (2020年10月14認可)		変更後 (本変更認可申請)		備考		
K7 ① II R1	b. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機(ファン)(6,7号機共用)					
	変更前		変更後			
	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機(ファン)(6,7号機共用)			
	送風機	種類	遠心式			
		容量	469以上(600*1)			
		主要寸法	吸込口径	113.2*1		
			吐出口径	100*1		
			たて	1338*1		
		横	537*1			
		高さ	476*1			
	個数	2(予備1)				
	取付箇所	保管場所	5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm			
		取付箇所	5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)付近			
		溢水防護上の区画番号	K5TSC			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	0.00m				
	原動機	種類	三相誘導電動機			
		出力	0.7			
		個数	2(予備1)			
		取付箇所	送風機と同じ			
	設計上の空気の流入率	回/h		—*2		
注記*1:公称値を示す。 *2:陽圧維持できるよう加圧するため、空気流入はない。						
6-2-25						
K7 変① II R0	b. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機(ファン)(6,7号機共用)					
	変更前		変更後			
	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機(ファン)(6,7号機共用)			
	送風機	種類	遠心式			
		容量	469以上(600*1)			
		主要寸法	吸込口径	113.2*1		
			吐出口径	100*1		
			たて	1338*1		
		横	537*1			
		高さ	476*1			
	個数	2(予備1)				
	取付箇所	保管場所	5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm			
		取付箇所	5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 5号機原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)付近			
		溢水防護上の区画番号	K5TSC			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	0.00m				
	原動機	種類	三相誘導電動機			
		出力	0.7			
		個数	2(予備1)			
		取付箇所	送風機と同じ			
	設計上の空気の流入率	回/h		—*2		
注記*1:公称値を示す。 *2:陽圧維持できるよう加圧するため、空気流入はない。						
6-2-2						
				原動機出力の変更		

【6. 放射線管理施設 2 換気設備 2.2 緊急時対策所換気空調系 (4) 送風機】

変更前 (2020年10月14認可)		変更後 (本変更認可申請)		備考	
K7 ① II RI	c. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 可搬型外気取入送風機 (6,7号機共用)				
	名称		変更前	変更後	
	種類		遠心式		
	容量		560以上(600*)		
	主要寸法	吸込口径	125*		
		吐出口径	100*		
		たて	715*		
		横	364*		
		高さ	536*		
	個数		2 (予備1)		
	送風機	取付箇所	保管場所: 5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 取付箇所: (5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 付近)		変更なし
		溢水防護上の区画番号	K5TSC		
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	0.00m		
	原動機	種類	单相誘導電動機		
		出力	0.7		
個数		2 (予備1)			
取付箇所		送風機と同じ			
設計上の空気の流入率		—			
注記*: 公称値を示す。					
6-2-26		6-2-3		原動機出力の変更	
c. 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 可搬型外気取入送風機 (6,7号機共用)					
名称		変更前	変更後		
種類		遠心式			
容量		560以上(600*)			
主要寸法	吸込口径	125*			
	吐出口径	100*			
	たて	715*			
	横	364*			
	高さ	536*			
個数		2 (予備1)			
送風機	取付箇所	保管場所: 5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 取付箇所: (5号機原子炉建屋 T. M. S. L. 27800mm 5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 付近)		変更なし	
	溢水防護上の区画番号	K5TSC			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	0.00m			
原動機	種類	单相誘導電動機			
	出力	0.7			
	個数	2 (予備1)			
取付箇所		送風機と同じ		変更なし	
設計上の空気の流入率		—			
注記*: 公称値を示す。					

【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考																								
<p style="text-align: center;">3.4.3 送風機</p> <table border="1" data-bbox="460 550 1240 722"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td>560以上（600）</td> </tr> <tr> <td>原動機出力</td> <td>kW/個</td> <td><u>0.7</u></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設定根拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所内への放射性物質の侵入を低減するとともに、緊急時対策所の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持できる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の容量は、隣接区画+20Pa以上で一般的な労働環境における酸素濃度の許容濃度を満たすことができる流量64m<sup>3</sup>/h*並びに二酸化炭素濃度の許容濃度を満たすことができる流量560m<sup>3</sup>/h*を踏まえ、要求値560m<sup>3</sup>/hに設計裕度をもった600m<sup>3</sup>/h（1個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> <p>注記*：添付資料「V-1-9-3-2 緊急時対策所の居住性に関する説明書」に示す容量</p> <p style="text-align: center;">57</p>	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）	容量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）	原動機出力	kW/個	<u>0.7</u>	個数	—	1（予備1）	<p style="text-align: center;">3.4.3 送風機</p> <table border="1" data-bbox="1626 550 2407 722"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td>560以上（600）</td> </tr> <tr> <td>原動機出力</td> <td>kW/個</td> <td><u>0.37</u></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>1（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設定根拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所内への放射性物質の侵入を低減するとともに、緊急時対策所の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持できる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の容量は、隣接区画+20Pa以上で一般的な労働環境における酸素濃度の許容濃度を満たすことができる流量64m<sup>3</sup>/h*並びに二酸化炭素濃度の許容濃度を満たすことができる流量560m<sup>3</sup>/h*を踏まえ、要求値560m<sup>3</sup>/hに設計裕度をもった600m<sup>3</sup>/h（1個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> <p>注記*：添付資料「V-1-9-3-2 緊急時対策所の居住性に関する説明書」に示す容量</p> <p style="text-align: center;">57</p>	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）	容量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）	原動機出力	kW/個	<u>0.37</u>	個数	—	1（予備1）	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">原動機出力の変更</p>
名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）																								
容量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）																								
原動機出力	kW/個	<u>0.7</u>																								
個数	—	1（予備1）																								
名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）																								
容量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）																								
原動機出力	kW/個	<u>0.37</u>																								
個数	—	1（予備1）																								

K7 ① V-1-1-5-6 R1

K7 変① V-1-1-5-6 R0



【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>K7 ① V-1-1-5-6 R1</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る0.7kW/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持するために予備1個を含む合計2個設置する。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>K7 ① V-1-1-5-6 R0</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">58</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>K7 ① V-1-1-5-6 R0</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る0.37kW/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持するために予備1個を含む合計2個設置する。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> <p>K7 ① V-1-1-5-6 R0</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">58</p>	<p style="text-align: center;">原動機出力の変更</p>

【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考																								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td>469以上（600）</td> </tr> <tr> <td>原動機出力</td> <td>kW/個</td> <td><u>0.7</u></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設定根拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内の陽圧を維持できる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の容量は、隣接区画+20Pa以上で一般的な労働環境における酸素濃度の許容濃度を満たすことができる流量73m<sup>3</sup>/h*、二酸化炭素濃度の許容濃度を満たすことができる流量638m<sup>3</sup>/h*並びに隣接区画との差圧+20Paを確保するための必要給気量938m<sup>3</sup>/hを踏まえ、要求値938m<sup>3</sup>/h（469m<sup>3</sup>/h/個×2個）に設計裕度をもった1200m<sup>3</sup>/h（600m<sup>3</sup>/h/個×2個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> <p>注記*：添付資料「V-1-9-3-2 緊急時対策所の居住性に関する説明書」に示す容量</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 変① V-1-1-5-6 R0</div> </div>	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）	容量	m <sup>3</sup> /h/個	469以上（600）	原動機出力	kW/個	<u>0.7</u>	個数	—	2（予備1）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 変① V-1-1-5-6 R0</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td>469以上（600）</td> </tr> <tr> <td>原動機出力</td> <td>kW/個</td> <td><u>0.37</u></td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td>2（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設定根拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内の陽圧を維持できる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の容量は、隣接区画+20Pa以上で一般的な労働環境における酸素濃度の許容濃度を満たすことができる流量73m<sup>3</sup>/h*、二酸化炭素濃度の許容濃度を満たすことができる流量638m<sup>3</sup>/h*並びに隣接区画との差圧+20Paを確保するための必要給気量938m<sup>3</sup>/hを踏まえ、要求値938m<sup>3</sup>/h（469m<sup>3</sup>/h/個×2個）に設計裕度をもった1200m<sup>3</sup>/h（600m<sup>3</sup>/h/個×2個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> <p>注記*：添付資料「V-1-9-3-2 緊急時対策所の居住性に関する説明書」に示す容量</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 変① V-1-1-5-6 R0</div> </div>	名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）	容量	m <sup>3</sup> /h/個	469以上（600）	原動機出力	kW/個	<u>0.37</u>	個数	—	2（予備1）	<p style="text-align: center;">原動機出力の変更</p>
名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）																								
容量	m <sup>3</sup> /h/個	469以上（600）																								
原動機出力	kW/個	<u>0.7</u>																								
個数	—	2（予備1）																								
名称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） 可搬型陽圧化空調機（ファン）（6,7号機共用）																								
容量	m <sup>3</sup> /h/個	469以上（600）																								
原動機出力	kW/個	<u>0.37</u>																								
個数	—	2（予備1）																								

【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る0.7kW/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内の陽圧を維持するために予備1個を含む合計3個設置する。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> </div> <p style="text-align: center;">60</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る0.37kW/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内への放射性物質の侵入を低減するとともに、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の気密性に対して余裕を考慮した換気を行うため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（ファン）を使用し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機（フィルタユニット）を介して5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内へ空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）内の陽圧を維持するために予備1個を含む合計3個設置する。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> </div> <p style="text-align: center;">60</p>	<p style="text-align: center;">原動機出力の変更</p>



【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考																								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 RI</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">名 称</th> <th style="text-align: center;">5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">容 量</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup>/h/個</td> <td style="text-align: center;">560以上（600）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">原 動 機 出 力</td> <td style="text-align: center;">kW/個</td> <td style="text-align: center;">0.7</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">個 数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設 定 根 拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を連結し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ建屋内の空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）の気密性及び緊急時対策所遮蔽の性能とあいまって、居住性に係る判断基準を超えない設計とする。また給気エリアにあっては事故後の汚染した空気を5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機を用いて清浄な外気でパージできる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の容量は、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）へ連結するために1個、給気エリアをパージするために1個使用することを踏まえ、要求値560m<sup>3</sup>/h/個に設計裕度をもった1200m<sup>3</sup>/h（600m<sup>3</sup>/h/個×2個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">61</div>	名 称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）	原 動 機 出 力	kW/個	0.7	個 数	—	2（予備1）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">名 称</th> <th style="text-align: center;">5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">容 量</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup>/h/個</td> <td style="text-align: center;">560以上（600）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">原 動 機 出 力</td> <td style="text-align: center;">kW/個</td> <td style="text-align: center;">0.37</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">個 数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2（予備1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>【設 定 根 拠】 （概要） 重大事故等時に放射線管理施設のうち換気設備（緊急時対策所換気空調系）として使用する5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機は、以下の機能を有する。</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機は、重大事故等が発生した場合においても重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員が5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）にとどまることができるよう、適切な措置を講ずるために設置する。</p> <p>系統構成は、重大事故等が発生した場合において、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を連結し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ建屋内の空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）の気密性及び緊急時対策所遮蔽の性能とあいまって、居住性に係る判断基準を超えない設計とする。また給気エリアにあっては事故後の汚染した空気を5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機を用いて清浄な外気でパージできる設計とする。</p> <p>1. 容量 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の容量は、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）へ連結するために1個、給気エリアをパージするために1個使用することを踏まえ、要求値560m<sup>3</sup>/h/個に設計裕度をもった1200m<sup>3</sup>/h（600m<sup>3</sup>/h/個×2個）とする。公称値については設計裕度をもった容量と同じ600m<sup>3</sup>/h/個とする。</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① V-1-1-5-6 R0</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">61</div>	名 称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）	原 動 機 出 力	kW/個	0.37	個 数	—	2（予備1）	<p>原動機出力の変更</p>
名 称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）																								
容 量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）																								
原 動 機 出 力	kW/個	0.7																								
個 数	—	2（予備1）																								
名 称		5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部） 可搬型外気取入送風機（6,7号機共用）																								
容 量	m <sup>3</sup> /h/個	560以上（600）																								
原 動 機 出 力	kW/個	0.37																								
個 数	—	2（予備1）																								









【V-1-1-5-6 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（放射線管理施設）】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る<u>0.7kW</u>/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を連結し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ建屋内の空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持し、また給気エリアにあっては事故後の汚染した空気を5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機を用いて清浄な外気でパージするために予備1個を含む合計3個設置する。</p> </div> <p style="text-align: center;">62</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2. 原動機出力</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の原動機出力は、風量600m<sup>3</sup>/h/個の時の軸動力を基に設定する。</p> <p>定格風量点における1個あたりの5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機の風量は600m<sup>3</sup>/h、全圧が1.28kPa（0.00128MPa）であり、その時の必要軸動力は、以下の通り0.32kWとなるため、原動機出力はそれを上回る<u>0.37kW</u>/個とする。</p> <math display="block">L = (P \cdot Q / 3600) / \eta = (1.28 \times 600 / 3600) / 0.68 = 0.32</math> <p>L：必要軸動力（kW）                      P：ファン全圧（kPa）=1.28                      Q：ファン風量（m<sup>3</sup>/h）=600                      η：ファン効率=0.68</p> <p>3. 個数</p> <p>5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機（原動機含む。）は、重大事故等対処設備として5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内への放射性物質の侵入を低減するため、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機（ファン）を連結し、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内へ建屋内の空気を供給することで5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）内の陽圧を維持し、また給気エリアにあっては事故後の汚染した空気を5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型外気取入送風機を用いて清浄な外気でパージするために予備1個を含む合計3個設置する。</p> </div> <p style="text-align: center;">62</p>	<p style="text-align: center;">原動機出力の変更</p>

K7 ① V-1-1-5-6 RI

K7 変① V-1-1-5-6 R0

【4 火災防護設備 2 消火設備 (2) 容器 ・常設 b. 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ】

変更前 (2020年10月14認可)		変更後 (本変更認可申請)		備考																																																																																																																																																																																																																
<p>b. 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td> 二酸化炭素ボンベ</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>ℓ/個</td> <td>68以上(68*)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用</td> <td>圧</td> </tr> <tr> <td>力</td> <td></td> <td>MPa</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用</td> <td>温</td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要 寸法</td> <td>外</td> <td>径</td> <td>mm</td> <td>270*</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>1500*</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>部</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>5.9以上(7.0*)</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>部</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>12.0以上(12.0*)</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系</td> <td>統</td> <td>名</td> <td>—</td> <td>消火系</td> </tr> <tr> <td>設</td> <td>置</td> <td>床</td> <td>—</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm</td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> <td>護</td> <td>上</td> <td>の</td> </tr> <tr> <td>区</td> <td>画</td> <td>番</td> <td>号</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> <td>護</td> <td>上</td> <td>の</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配</td> <td>慮</td> <td>が</td> <td>必</td> <td>要</td> <td>な</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：公称値を示す。</p>				変更前	変更後	名称			 二酸化炭素ボンベ	種	類	—	鋼製容器	容	量	ℓ/個	68以上(68*)	最	高	使用	圧	力		MPa	10.8	最	高	使用	温	度		℃	40	主要 寸法	外	径	mm	270*	高	さ	mm	1500*	胴	部	厚	さ	mm	5.9以上(7.0*)	底	部	厚	さ	mm	12.0以上(12.0*)	材	料	—	マンガン鋼	個	数	—	21	取 付 箇 所	系	統	名	—	消火系	設	置	床	—	原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm	溢	水	防	護	上	の	区	画	番	号	—		溢	水	防	護	上	の		配	慮	が	必	要	な	高	さ				—		<p>b. 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td> 二酸化炭素ボンベ</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>—</td> <td>鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容</td> <td>量</td> <td>ℓ/個</td> <td>68以上(68*)</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用</td> <td>圧</td> </tr> <tr> <td>力</td> <td></td> <td>MPa</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>最</td> <td>高</td> <td>使用</td> <td>温</td> </tr> <tr> <td>度</td> <td></td> <td>℃</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要 寸法</td> <td>外</td> <td>径</td> <td>mm</td> <td>270*</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>1500*</td> </tr> <tr> <td>胴</td> <td>部</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>5.9以上(7.0*)</td> </tr> <tr> <td>底</td> <td>部</td> <td>厚</td> <td>さ</td> <td>mm</td> <td>12.0以上(12.0*)</td> </tr> <tr> <td>材</td> <td>料</td> <td>—</td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個</td> <td>数</td> <td>—</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系</td> <td>統</td> <td>名</td> <td>—</td> <td>消火系</td> </tr> <tr> <td>設</td> <td>置</td> <td>床</td> <td>—</td> <td>原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm</td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> <td>護</td> <td>上</td> <td>の</td> </tr> <tr> <td>区</td> <td>画</td> <td>番</td> <td>号</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢</td> <td>水</td> <td>防</td> <td>護</td> <td>上</td> <td>の</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配</td> <td>慮</td> <td>が</td> <td>必</td> <td>要</td> <td>な</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：公称値を示す。</p>				変更前	変更後	名称			 二酸化炭素ボンベ	種	類	—	鋼製容器	容	量	ℓ/個	68以上(68*)	最	高	使用	圧	力		MPa	10.8	最	高	使用	温	度		℃	40	主要 寸法	外	径	mm	270*	高	さ	mm	1500*	胴	部	厚	さ	mm	5.9以上(7.0*)	底	部	厚	さ	mm	12.0以上(12.0*)	材	料	—	マンガン鋼	個	数	—	21	取 付 箇 所	系	統	名	—	消火系	設	置	床	—	原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm	溢	水	防	護	上	の	区	画	番	号	—		溢	水	防	護	上	の		配	慮	が	必	要	な	高	さ				—		<p>ボンベ寸法変更の反映</p>
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																	
名称			 二酸化炭素ボンベ																																																																																																																																																																																																																	
種	類	—	鋼製容器																																																																																																																																																																																																																	
容	量	ℓ/個	68以上(68*)																																																																																																																																																																																																																	
最	高	使用	圧																																																																																																																																																																																																																	
力		MPa	10.8																																																																																																																																																																																																																	
最	高	使用	温																																																																																																																																																																																																																	
度		℃	40																																																																																																																																																																																																																	
主要 寸法	外	径	mm	270*																																																																																																																																																																																																																
	高	さ	mm	1500*																																																																																																																																																																																																																
	胴	部	厚	さ	mm	5.9以上(7.0*)																																																																																																																																																																																																														
	底	部	厚	さ	mm	12.0以上(12.0*)																																																																																																																																																																																																														
材	料	—	マンガン鋼																																																																																																																																																																																																																	
個	数	—	21																																																																																																																																																																																																																	
取 付 箇 所	系	統	名	—	消火系																																																																																																																																																																																																															
	設	置	床	—	原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm																																																																																																																																																																																																															
	溢	水	防	護	上	の																																																																																																																																																																																																														
	区	画	番	号	—																																																																																																																																																																																																															
溢	水	防	護	上	の																																																																																																																																																																																																															
配	慮	が	必	要	な	高																																																																																																																																																																																																														
さ				—																																																																																																																																																																																																																
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																	
名称			 二酸化炭素ボンベ																																																																																																																																																																																																																	
種	類	—	鋼製容器																																																																																																																																																																																																																	
容	量	ℓ/個	68以上(68*)																																																																																																																																																																																																																	
最	高	使用	圧																																																																																																																																																																																																																	
力		MPa	10.8																																																																																																																																																																																																																	
最	高	使用	温																																																																																																																																																																																																																	
度		℃	40																																																																																																																																																																																																																	
主要 寸法	外	径	mm	270*																																																																																																																																																																																																																
	高	さ	mm	1500*																																																																																																																																																																																																																
	胴	部	厚	さ	mm	5.9以上(7.0*)																																																																																																																																																																																																														
	底	部	厚	さ	mm	12.0以上(12.0*)																																																																																																																																																																																																														
材	料	—	マンガン鋼																																																																																																																																																																																																																	
個	数	—	21																																																																																																																																																																																																																	
取 付 箇 所	系	統	名	—	消火系																																																																																																																																																																																																															
	設	置	床	—	原子炉建屋 T.M.S.L.18100mm																																																																																																																																																																																																															
	溢	水	防	護	上	の																																																																																																																																																																																																														
	区	画	番	号	—																																																																																																																																																																																																															
溢	水	防	護	上	の																																																																																																																																																																																																															
配	慮	が	必	要	な	高																																																																																																																																																																																																														
さ				—																																																																																																																																																																																																																
8-4-2-2-2-1	8-4-2-2-2-1																																																																																																																																																																																																																			

【4 火災防護設備 2 消火設備 (2) 容器 ・常設 b. 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ポンペ】

変更前 (2020年10月14認可)				変更後 (本変更認可申請)				備考
K7 ① II RI	名称			変更前	変更後			ボンベ寸法変更の反映
	種 類			—	[ ] 用 二酸化炭素ポンベ			
	容 量				鋼製容器			
	最 高 使 用 圧 力				68 以上 (68 *)			
	最 高 使 用 温 度				10.8			
	主 要 寸 法	外 径			40			
		高 さ			270 *			
		胴 部 厚 さ			1500 *			
		底 部 厚 さ			5.9 以上 (7.0 *)			
	材 料				12.0 以上 (12.0 *)			
	個 数				マンガン鋼			
	系 統 名				22			
	設 置 床				消火系			
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号				原子炉建屋 T.M.S.L. 18100mm			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ				—			
			注記* : 公称値を示す。					
			8-4-2-2-2					
K7 変① II R0	名称			変更前	変更後			ボンベ寸法変更の反映
	種 類			—	[ ] 用 二酸化炭素ポンベ			
	容 量				鋼製容器			
	最 高 使 用 圧 力				68 以上 (68 *)			
	最 高 使 用 温 度				10.8			
	主 要 寸 法	外 径			40			
		高 さ			270 *			
		胴 部 厚 さ			1500 *			
		底 部 厚 さ			5.9 以上 (7.0 *)			
	材 料				12.0 以上 (12.0 *)			
	個 数				マンガン鋼			
	系 統 名				22			
	設 置 床				消火系			
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号				原子炉建屋 T.M.S.L. 18100mm			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ				—			
			注記* : 公称値を示す。					
			8-4-2-2-2					

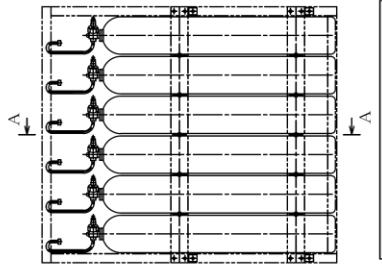
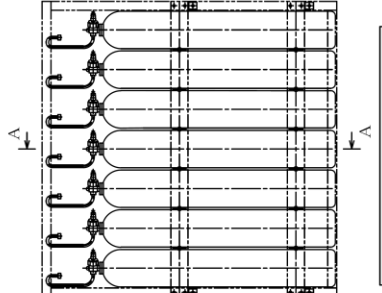
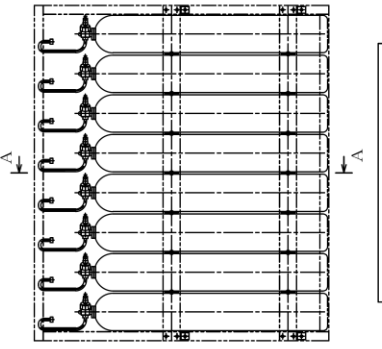

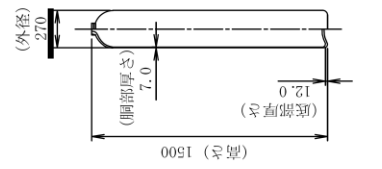
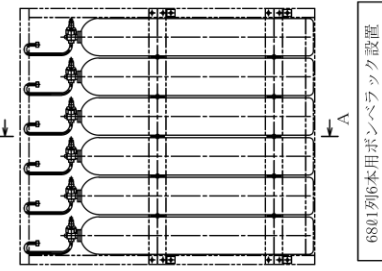
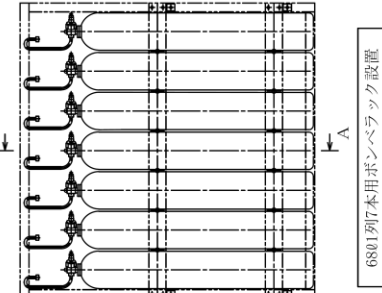
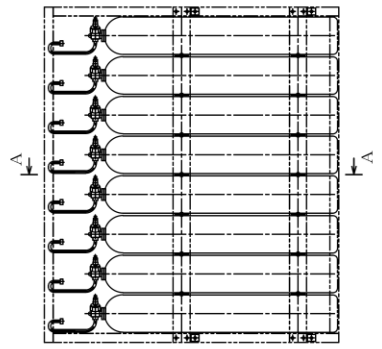

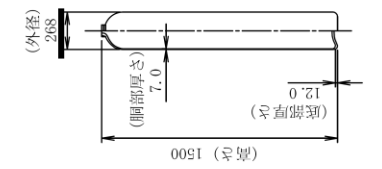
【4 火災防護設備 2 消火設備 (2) 容器 ・常設 g. 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ボンベ】

変更前 (2020年10月14認可)		変更後 (本変更認可申請)		備考																																																																																																																																
K7 ① II RI g. 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ボンベ		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">名称</td> </tr> <tr> <td colspan="4">中央制御室床下フリーアクセスフロア 消火設備用 ハロゲン化物ボンベ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>類</td> <td colspan="2">鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>ℓ/個</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">5.2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>外径</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td colspan="3">マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="3">6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名</td> <td colspan="2">ハロゲン化物消火系</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="2">コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>		変更前		変更後		名称				中央制御室床下フリーアクセスフロア 消火設備用 ハロゲン化物ボンベ				種類	類	鋼製容器		容量	ℓ/個	[ ]		最高使用圧力	MPa	5.2		最高使用温度	℃	40		主要寸法	外径	[ ]		高さ	[ ]		胴部厚さ	[ ]		底部厚さ	[ ]		材料	マンガン鋼			個数	6			取付箇所	系統名	ハロゲン化物消火系		設置床	コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm		取付箇所	溢水防護上の 区画番号	—		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">名称</td> </tr> <tr> <td colspan="4">中央制御室床下フリーアクセス フロア消火設備用 ハロゲン化物ボンベ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>類</td> <td colspan="2">鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>ℓ/個</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2">5.2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2">40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>外径</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td colspan="2">[ ]</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td colspan="3">マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td colspan="3">6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名</td> <td colspan="2">ハロゲン化物消火系</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="2">コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>		変更前		変更後		名称				中央制御室床下フリーアクセス フロア消火設備用 ハロゲン化物ボンベ				種類	類	鋼製容器		容量	ℓ/個	[ ]		最高使用圧力	MPa	5.2		最高使用温度	℃	40		主要寸法	外径	[ ]		高さ	[ ]		胴部厚さ	[ ]		底部厚さ	[ ]		材料	マンガン鋼			個数	6			取付箇所	系統名	ハロゲン化物消火系		設置床	コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm		取付箇所	溢水防護上の 区画番号	—		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		変更なし  ボンベ寸法変更の反映  ボンベ寸法変更の反映
		変更前		変更後																																																																																																																																
名称																																																																																																																																				
中央制御室床下フリーアクセスフロア 消火設備用 ハロゲン化物ボンベ																																																																																																																																				
種類	類	鋼製容器																																																																																																																																		
容量	ℓ/個	[ ]																																																																																																																																		
最高使用圧力	MPa	5.2																																																																																																																																		
最高使用温度	℃	40																																																																																																																																		
主要寸法	外径	[ ]																																																																																																																																		
	高さ	[ ]																																																																																																																																		
	胴部厚さ	[ ]																																																																																																																																		
	底部厚さ	[ ]																																																																																																																																		
材料	マンガン鋼																																																																																																																																			
個数	6																																																																																																																																			
取付箇所	系統名	ハロゲン化物消火系																																																																																																																																		
	設置床	コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm																																																																																																																																		
取付箇所	溢水防護上の 区画番号	—																																																																																																																																		
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																		
変更前		変更後																																																																																																																																		
名称																																																																																																																																				
中央制御室床下フリーアクセス フロア消火設備用 ハロゲン化物ボンベ																																																																																																																																				
種類	類	鋼製容器																																																																																																																																		
容量	ℓ/個	[ ]																																																																																																																																		
最高使用圧力	MPa	5.2																																																																																																																																		
最高使用温度	℃	40																																																																																																																																		
主要寸法	外径	[ ]																																																																																																																																		
	高さ	[ ]																																																																																																																																		
	胴部厚さ	[ ]																																																																																																																																		
	底部厚さ	[ ]																																																																																																																																		
材料	マンガン鋼																																																																																																																																			
個数	6																																																																																																																																			
取付箇所	系統名	ハロゲン化物消火系																																																																																																																																		
	設置床	コントロール建屋 T.M.S.L.12300mm																																																																																																																																		
取付箇所	溢水防護上の 区画番号	—																																																																																																																																		
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																		
注記* : 公称値を示す。		注記* : 公称値を示す。																																																																																																																																		
8-4-2-2-7-1		8-4-2-2-7-1																																																																																																																																		

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密あるいは防護上の観点から公開できません。

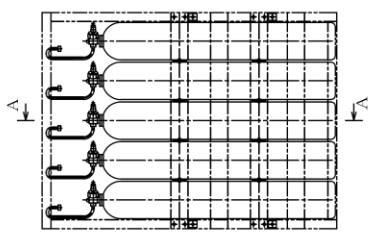
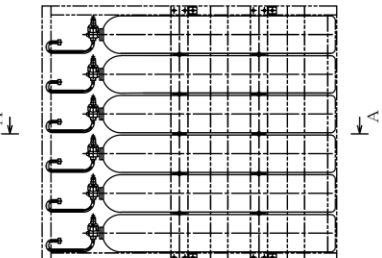
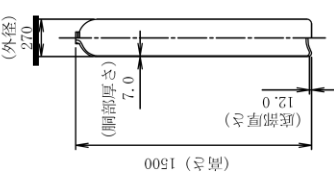
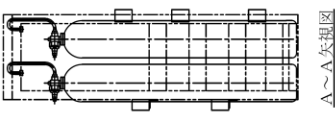
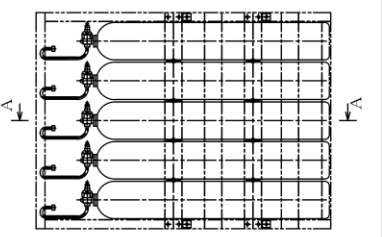
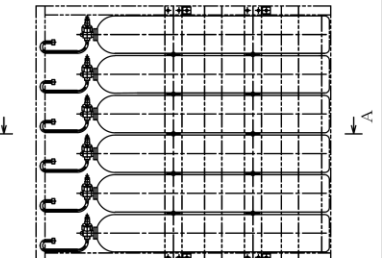
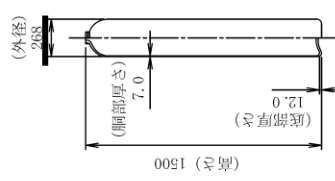
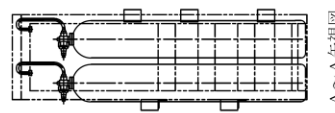


【第9-3-2-4-2-1図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備（二酸化炭素消火設備）の構造図 DG(A)室, DG(A)燃料デイトンク室, DG(C)室, DG(C)燃料デイトンク室用二酸化炭素ポンペ】

変更前 (2020年10月14認可)	変更後 (本変更認可申請)	備考
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6801列6本用ポンペラック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6801列7本用ポンペラック設置</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>6801列8本用ポンペラック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>A-A去視図</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(高さ) 1500 (胴部厚さ) 7.0 (底厚さ) 12.0 (外径) 270</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>注1：寸法はmmを示す。 注2：特記なき寸法は公称値を示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工事計画認可申請 第9-3-2-4-2-1図 柏崎刈羽原子力発電所第7号機 その他発電用原子炉の附属施設のうち 火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備)の構造図 名称 [ ] 用 東京電力ホールディングス株式会社 0803</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6801列6本用ポンペラック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6801列7本用ポンペラック設置</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>6801列8本用ポンペラック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>A-A去視図</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(高さ) 1500 (胴部厚さ) 7.0 (底厚さ) 12.0 (外径) 268</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>注1：寸法はmmを示す。 注2：特記なき寸法は公称値を示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工事計画認可申請 第9-3-2-4-2-1図 柏崎刈羽原子力発電所第7号機 その他発電用原子炉の附属施設のうち 火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備)の構造図 名称 [ ] 用 東京電力ホールディングス株式会社 0805</p> </div>	<p>ポンペ寸法変更の反映 (要目表修正に伴う反映)</p>

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密あるいは防護上の観点から公開できません。

【第9-3-2-4-2-2図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備（二酸化炭素消火設備）の構造図 DG(B)室、DG(B)燃料デイトンク室用二酸化炭素ポンペ】

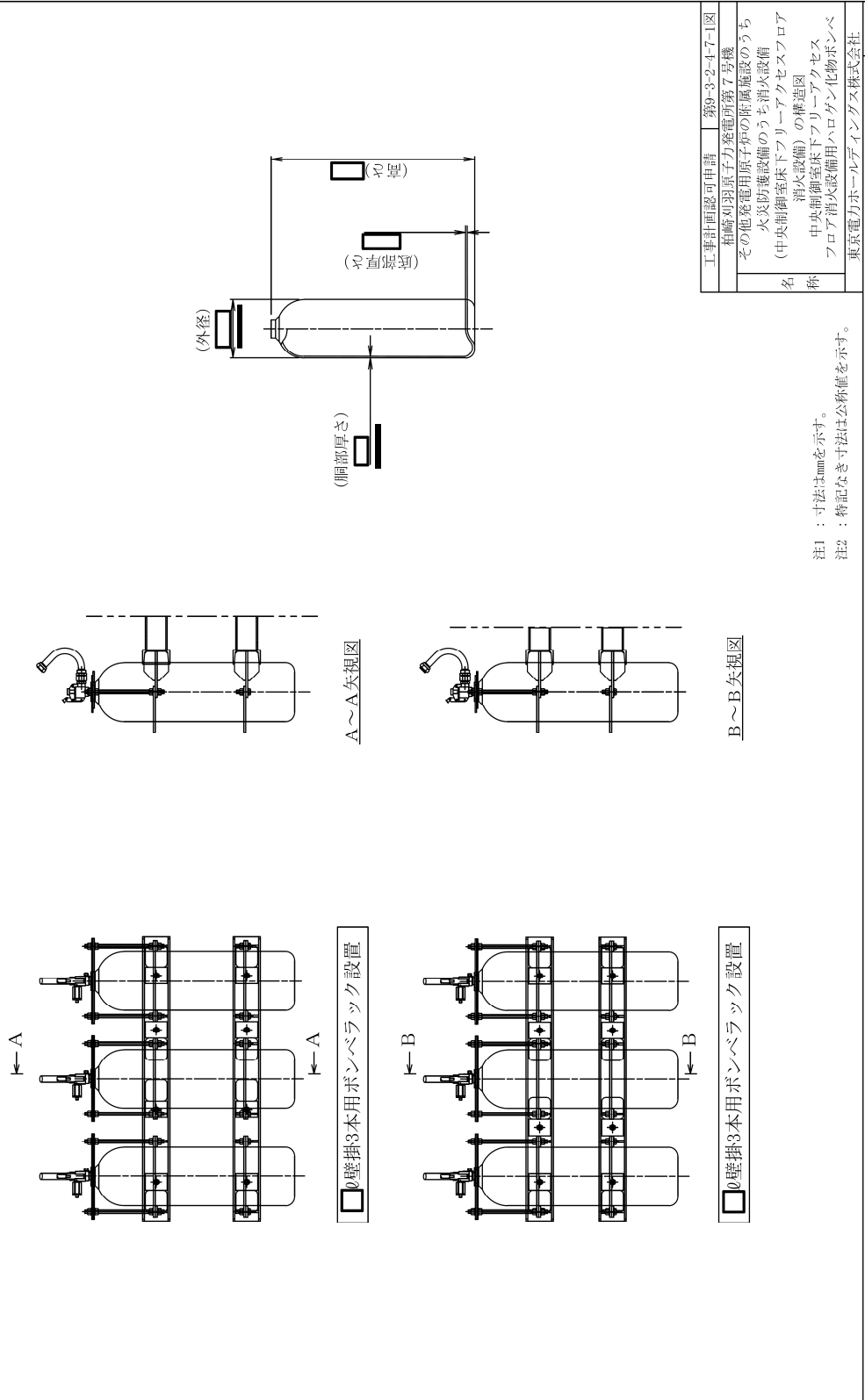
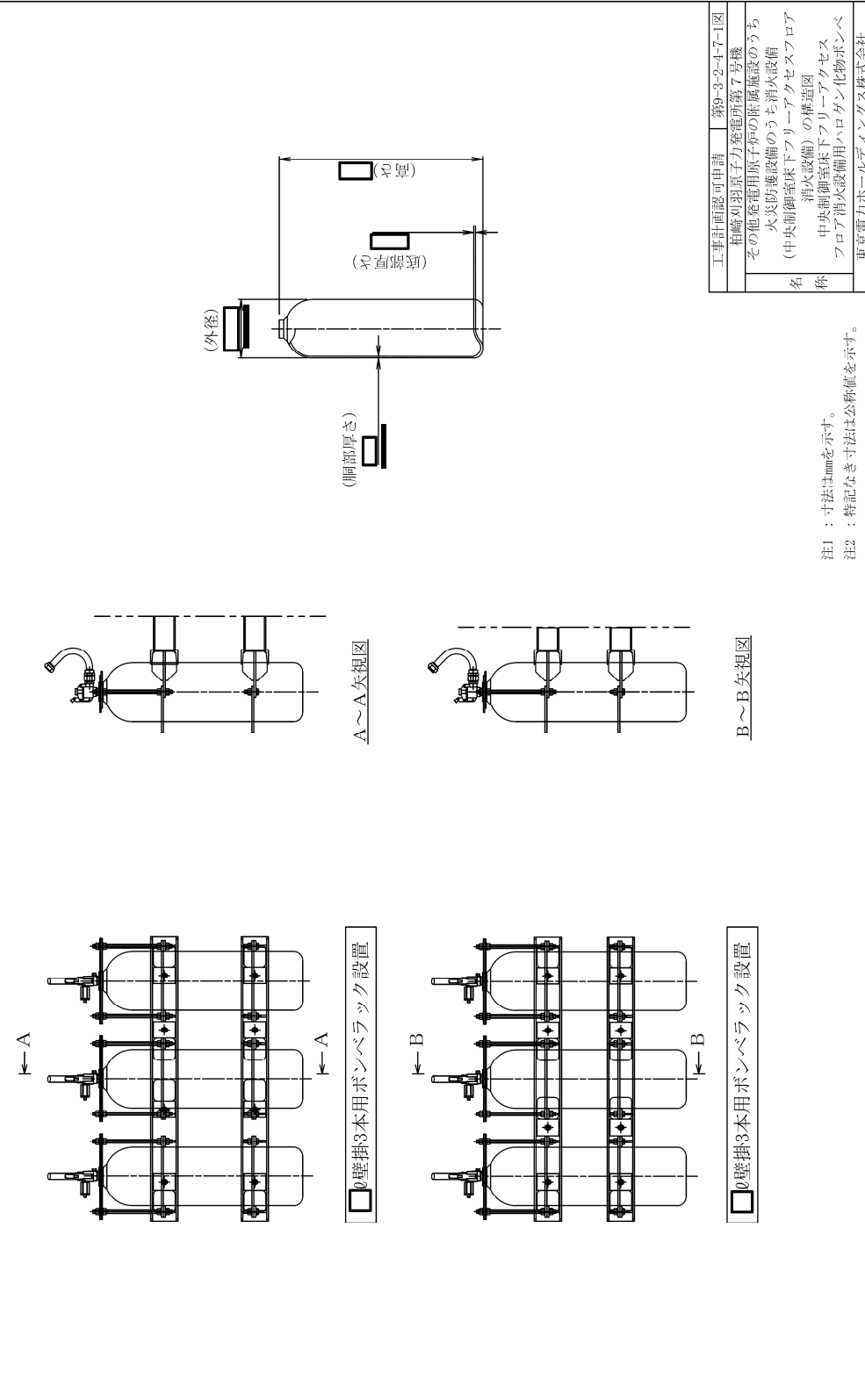
変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6802列10本用ポンプバック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6802列12本用ポンプバック設置</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(高さ) 1500 (底部厚さ) 12.0 (胴部厚さ) 7.0 (外径) 2670</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>△～△矢視図</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>工事計画認可申請 第9-3-2-4-2-2図 柏崎刈羽原子力発電所第7号機 その他発電用原子炉の附属施設のうち 火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備)の構造図 用 二酸化炭素ポンペ 東京電力ホールディングス株式会社 0808</p> <p>注1：寸法はmmを示す。 注2：特記なき寸法は公称値を示す。</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>6802列10本用ポンプバック設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6802列12本用ポンプバック設置</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(高さ) 1500 (底部厚さ) 12.0 (胴部厚さ) 7.0 (外径) 2680</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>△～△矢視図</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>工事計画認可申請 第9-3-2-4-2-2図 柏崎刈羽原子力発電所第7号機 その他発電用原子炉の附属施設のうち 火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備)の構造図 用 二酸化炭素ポンペ 東京電力ホールディングス株式会社 0808</p> <p>注1：寸法はmmを示す。 注2：特記なき寸法は公称値を示す。</p> </div>	<p>ポンペ寸法変更の反映 (要目表修正に伴う反映)</p>

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密あるいは防護上の観点から公開できません。

【9.3.2.4.2に含める (図の補足)】

変更前 (2020年10月14認可)	変更後 (本変更認可申請)	備考																														
<p>第9-3-2-4-2-1~2図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備) の構造図 別紙</p> <p>工事計画記載の公称値の許容範囲</p> <p>[容器類]</p> <p>用二酸化炭素ポンベ及び 用二酸化炭素ポンベ</p> <table border="1" data-bbox="406 653 1243 1029"> <thead> <tr> <th>主要寸法 (mm)</th> <th>許容範囲</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外径</td> <td>270 <u>±1%</u></td> <td>製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>1500 <u>±10mm</u></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>12.0 <u>+規定しない 0mm</u></td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 主要寸法は, 工事計画記載の公称値を示す。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 ① 9-3-2-4-2-1~2 RIE</p> <p style="text-align: center;">1</p>	主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠	外径	270 <u>±1%</u>	製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準	高さ	1500 <u>±10mm</u>	同上	胴部厚さ	7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u>	同上	底部厚さ	12.0 <u>+規定しない 0mm</u>	同上	<p>第9-3-2-4-2-1~2図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備 (二酸化炭素消火設備) の構造図 別紙</p> <p>工事計画記載の公称値の許容範囲</p> <p>[容器類]</p> <p>用二酸化炭素ポンベ及び 用二酸化炭素ポンベ</p> <table border="1" data-bbox="1570 653 2407 1029"> <thead> <tr> <th>主要寸法 (mm)</th> <th>許容範囲</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外径</td> <td>268 <u>±2.6mm</u></td> <td>製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>1500 <u>±10mm</u></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>12.0 <u>+規定しない 0mm</u></td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 主要寸法は, 工事計画記載の公称値を示す。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">K7 変① 9-3-2-4-2-1~2 ROE</p> <p style="text-align: center;">1</p>	主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠	外径	268 <u>±2.6mm</u>	製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準	高さ	1500 <u>±10mm</u>	同上	胴部厚さ	7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u>	同上	底部厚さ	12.0 <u>+規定しない 0mm</u>	同上	<p>ポンベ寸法変更の反映 (要目表修正に伴う反映)</p>
主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠																														
外径	270 <u>±1%</u>	製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準																														
高さ	1500 <u>±10mm</u>	同上																														
胴部厚さ	7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u>	同上																														
底部厚さ	12.0 <u>+規定しない 0mm</u>	同上																														
主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠																														
外径	268 <u>±2.6mm</u>	製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準																														
高さ	1500 <u>±10mm</u>	同上																														
胴部厚さ	7.0 <u>+規定しない -1.1mm</u>	同上																														
底部厚さ	12.0 <u>+規定しない 0mm</u>	同上																														

【第9-3-2-4-7-1図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備（中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備）の構造図 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備用ハロゲン化物ボンベ】

変更前（2020年10月14認可）	変更後（本変更認可申請）	備考
 <p data-bbox="1157 315 1335 630">                 工事計画認可申請 第9-3-2-4-7-1図                  柏崎刈羽原子力発電所第7号機                  その他発電用原子炉の附属施設のうち                  火災防護設備のうち消火設備                  （中央制御室床下フリーアクセスフロア                  消火設備）の構造図                  中央制御室床下フリーアクセス                  フロア消火設備用ハロゲン化物ボンベ                  東京電力ホールディングス株式会社                  0863             </p> <p data-bbox="1276 651 1335 924">                 注1：寸法はmmを示す。                  注2：特記なき寸法は公称値を示す。             </p>	 <p data-bbox="2315 315 2493 630">                 工事計画認可申請 第9-3-2-4-7-1図                  柏崎刈羽原子力発電所第7号機                  その他発電用原子炉の附属施設のうち                  火災防護設備のうち消火設備                  （中央制御室床下フリーアクセスフロア                  消火設備）の構造図                  中央制御室床下フリーアクセス                  フロア消火設備用ハロゲン化物ボンベ                  東京電力ホールディングス株式会社                  0865             </p> <p data-bbox="2433 651 2493 924">                 注1：寸法はmmを示す。                  注2：特記なき寸法は公称値を示す。             </p>	<p data-bbox="2552 609 2864 735">                 ボンベ寸法変更の反映                  （要目表修正に伴う反                  映）             </p> <p data-bbox="2552 756 2864 882">                 ボンベ寸法変更の反映                  （要目表修正に伴う反                  映）             </p>

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密あるいは防護上の観点から公開できません。



【9.3.2.4.7に含める (図の補足)】

変更前 (2020年10月14認可)	変更後 (本変更認可申請)	備考																														
<p>第9-3-2-4-7-1図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備 (中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備) の構造図 別紙 工事計画記載の公称値の許容範囲</p> <p>[容器類] 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備用ハロゲン化物ポンベ</p> <table border="1" data-bbox="406 632 1291 1020"> <thead> <tr> <th>主要寸法 (mm)</th> <th>許容範囲</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外径</td> <td></td> <td>製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 主要寸法は, 工事計画記載の公称値を示す。</p> <p style="text-align: center;">1</p>	主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠	外径		製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準	高さ		同上	胴部厚さ		同上	底部厚さ		同上	<p>第9-3-2-4-7-1図 その他発電用原子炉の附属施設のうち火災防護設備のうち消火設備 (中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備) の構造図 別紙 工事計画記載の公称値の許容範囲</p> <p>[容器類] 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備用ハロゲン化物ポンベ</p> <table border="1" data-bbox="1570 632 2454 1020"> <thead> <tr> <th>主要寸法 (mm)</th> <th>許容範囲</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外径</td> <td></td> <td>製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 主要寸法は, 工事計画記載の公称値を示す。</p> <p style="text-align: center;">1</p>	主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠	外径		製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準	高さ		同上	胴部厚さ		同上	底部厚さ		同上	<p>ポンベ寸法変更の反映 (要目表修正に伴う反映)</p> <p>ポンベ寸法変更の反映 (要目表修正に伴う反映)</p>
主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠																														
外径		製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準																														
高さ		同上																														
胴部厚さ		同上																														
底部厚さ		同上																														
主要寸法 (mm)	許容範囲	根 拠																														
外径		製造能力, 製造実績を考慮したメーカ基準																														
高さ		同上																														
胴部厚さ		同上																														
底部厚さ		同上																														